

夏枯れしにくいペレニアルライグラス新品種 「東北7号PR (系統名)」

東北農業研究センターは山梨県畜産酪農技術センターと共同して、夏の生長量に優れ、東北地域などの寒冷地に適したペレニアルライグラスの新品種「東北7号PR (系統名)」を育成しましたので、主な特性等について紹介します。品種名は、今後決まる予定です。

《ペレニアルライグラスとは》

ペレニアルライグラスは、世界で最も利用されている牧草です。放牧利用が主ですが、採草利用にも使われます。家畜が好んで食べ、また栄養価に優れるため、ミルクの生産量が増加したり、家畜が早く大きくなりやすいなどの特徴があります。また、発芽時の初期生育に優れるため、牧草地への追播に適した草種です。

《日本での利用は？》

北海道では、平成20年頃からペレニアルライグラスの利用量が大幅に増えています。それは、既存のチモシーやオーチャードグラス草地への追播に適しているためです。ペレニアルライグラスの追播により、生産される牧草の品質が向上し、雑草の侵入を防ぐなどの優れた効果が知られています。

一方、東北地域においては、ペレニアルライグラスの利用は多くありません。これは、東北地域では夏季の高温により、ペレニアルライグラスが枯死することがあり、ペレニアルライグラスの有用性が東北地域では、まだ十分に周知されていないからです。しかし、近年、北海道や海外での知見を得た先進的な生産者の中にペレニアルライグラスを東北地域でも使いたい方が現れ始めています。今後は東北地域でもペレニアルライグラスの利用は増加すると考えられます。

《「東北7号PR」の育成》

東北地域は寒冷地で、ペレニアルライグラスの適地ですが、近年の地球温暖化もあり、特に東北地域の南部では、夏の高温で牧草が枯死してしまうことがありました。そこで、東北農業研究センターは山梨県畜産酪農技術センターと共同して、夏の生産性に優れた新品種「東北7号PR (系統名)」を育成しました。この新品種は、夏の生産性で選抜され、2010年の猛暑の際に山梨県畜産酪農技術センターの選抜圃場でほとんどの個体が枯れる中、極少数の生存した個体を使って育成しており、夏季の高温でも枯死しないことが期待されました。

《「東北7号PR」の特徴》

「東北7号PR」の一番の特徴は、夏の暑さにも負けずに元気に生育することです(写真1)。栃木県那須塩原市はペレニアルライグラスの栽培適地では無いため、既存品種では夏枯れしたり、生育量が低下しますが、そのような状況においても、「東北7号PR」は緑度を維持しています。また、東

畜産飼料作研究領域

藤森雅博

FUJIMORI, Masahiro



北各県での試験においても、夏季の生産性に優れることが明らかになっています。



写真1 / 「東北7号PR」の越夏直後の様子

さらなる特徴としては、年間収量に優れることです。「東北7号PR」の3年間の合計収量は、既存の越夏性に優れる「ヤツユメ」と比べて、試験を行った5試験場全てで同等以上であり、平均で4%多収でした。東北地域で奨励品種になっている「フレンド」と比べても、全ての試験場で「東北7号PR」が優れ、平均で9%多収でした。

栽培適地は、本州以南の寒冷地(東北地域や中部高標高地帯：年平均気温9~12℃の地域)になります。現在、青森県、岩手県、宮城県、山形県、栃木県、群馬県、山梨県において、現地生産者の協力を得て実証試験を実施しているところです(写真2)。これらの情報を取りまとめて、2019年に栽培マニュアルを配布し、2021年から種子が市販される予定になっています。



写真2 / 「東北7号PR」を使った現地での放牧試験